

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「患者の自覚症状による副作用確認システムに関する研究」 タブレット端末により提供された副作用確認システムのパイロット調査

研究代表者 望月 真弓 (慶應義塾大学薬学部教授)

研究協力者 丸山 順也 (慶應義塾大学薬学部助教)

研究要旨

本研究では、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるようなシステム開発を行っている。今回、次年度に開発するタブレット用端末のアプリの要求仕様を検討するために、調査対象者に、サンプル事例を用いて実際にタブレット端末で検索していただき、検索後にどのように行動するかを確認することとし、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した。その結果、タブレット端末を用いて検索を体験する前と比較して、検索を体験した後では専門家へ相談するという意向を示す人が増えることを確認した。また、専門家への相談を動機付けるには、「医師や薬剤師へ相談して下さい」など、ストレートな文言で相談を強く勧めることが望まれる。

A. 研究目的

医薬品服用後に体調の変化を感じた場合を想定し、医薬品との関係性をタブレット端末用アプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について、タブレット端末を用いた、よりリアルな環境下で調査する。

B. 研究方法

調査は、平成 26 年 3 月に対面調査にて実施した。対象は、55 歳以上の男女とし、タブレット端末にてサンプル事例を検索していただき、医療者に相談に行くか否か、行かない場合、その理由について検索体験前と体験後の行動の変化を確認した。サンプル事例は、体調の変化が服薬している薬に起因する可能性が

あることを示唆する検索結果が表示される事例とした。

本調査の実施は、株式会社メディアの協力のもとに行った。

服薬後の体調変化の経験と感じた場合の相談状況に関する設問

< 3 問 >

- ・服薬後に体調の変化の有無：(Q1)
- ・体調の変化についての相談行動：(Q4、Q5)

タブレット端末による事例検索を体験した後の相談行動に関する設問

< 4 問 >

- ・検索結果を見た後の相談行動：(Q6、Q9)
- ・検索結果を見た後の服薬行動：(Q7)
- ・検索結果の表示内容：(Q8)

回答者属性設問

・年代(年齢)、性別

C. 研究結果

調査期間内に集積された回答は、34 件で、全件分析対象とした。各設問の回答未記入については、属性に関する設問は分母に加え、各本調査設問については、分母から除外した。各設問に対する回答の集計の中から、論点ごとに、主要な結果を以下に示す。

1. 回答者属性

1) 患者の属性

a. 年代(年齢)

55 歳～60 歳 38.2%、61 歳～65 歳 47.1%、66 歳～70 歳 5.9%、71 歳～75 歳 0.0%、76 歳～80 歳 2.9%、81 歳以上 5.9% であった。患者 1,000 人を対象とした先行調査は 65 歳以上の回答者が 31.8%であったが、本調査では 14.7%となり、中年層の回答が多い結果となった。

b. 性別

男性 76.5%、女性 23.5%であった。患者

1,000 人を対象とした先行調査は男性 50.0%、女性 50.0%であり、先行調査に比して本調査は男性比率の高い調査となった。

2. 服薬後の体調変化の経験がある場合の相談状況と相談先について

1) 体調の変化の有無と相談状況

服薬後に何らかの体調の変化を感じたことのある回答者は 20.6%、感じたことのない患者が 79.4%であった。先行調査では、46.5%が体調の変化を感じたことがあると回答していた。

体調の変化を感じたことのある回答者の、その後の行動は「相談しなかった」が 23.3%で「医師に相談した」、「薬剤師へ相談した」、「その他の医療職に相談した」、「家族、友人、介護支援者に相談した」がそれぞれ 60.0%、3.3%、6.7%、10.0%であった。相談しなかった理由としては、全員が「相談する必要性を感じないから」を選択した。

体調の変化を感じた後の相談行動について、先行調査回答との比較を図 1 に示した。

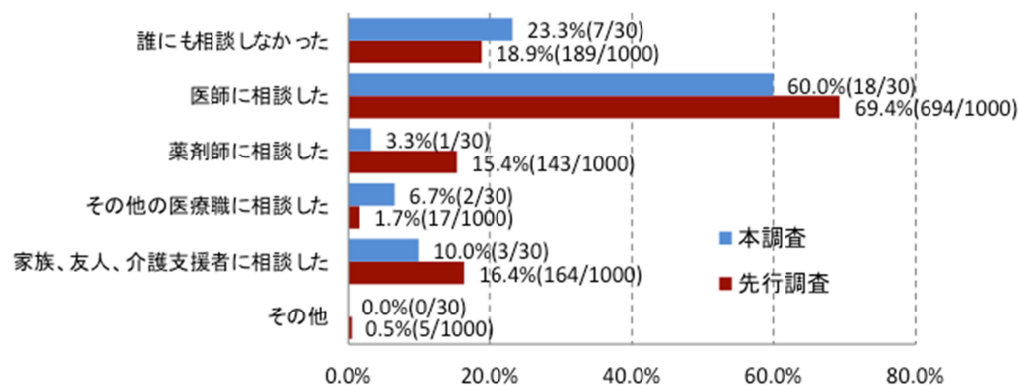


図 1. 体調の変化を感じた後の相談行動

3. タブレット端末による事例検索を体験した後の相談行動について

1) 検索体験後の相談行動

回答者全員にタブレット端末を用いて実際に検索結果は体調の変化は服薬している薬に起因する可能性があることを示唆する内容の事例を検索していただき、その後どのような行動をとるかを問うた。

検索結果を見た後の行動として、医師や薬剤師など専門家に相談するが 50.0%、相談してみようかと思うが 47.1%であり、97%が相談の意向を示し、相談しないは 2.9%であった。その回答を図 2 に示した。

検索体験前は相談しない(しなかった)が

23.3%であったのに対し、体験後は 2.9%へと変化しており、検索体験が専門家への相談行動を促していることが示唆された。

検索結果を医師や薬剤師へ相談するとしたら、どのような方法で相談したいかについては、電話や電子メールでの非対面での相談が 46.7%、対面での相談が 53.3%であった。その回答を図 3 に示した。

2) 検索体験後の服薬行動

検索結果を見た後の服薬行動については、やめない(服薬継続)が 5.9%、医師や薬剤師などの専門家に相談してからやめるが 79.4%、誰にも相談しないでやめるが 14.7%であった。その回答を図 4 に示した。

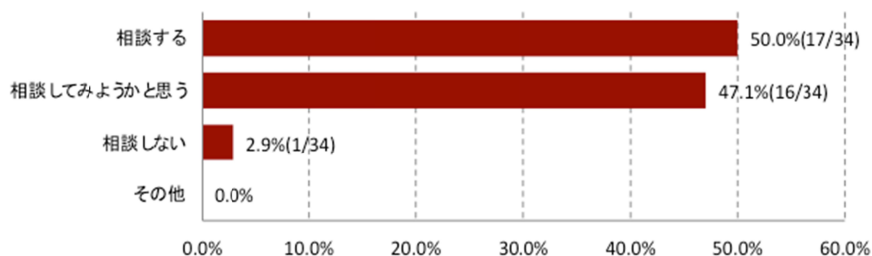


図 2. 検索体験後の相談行動

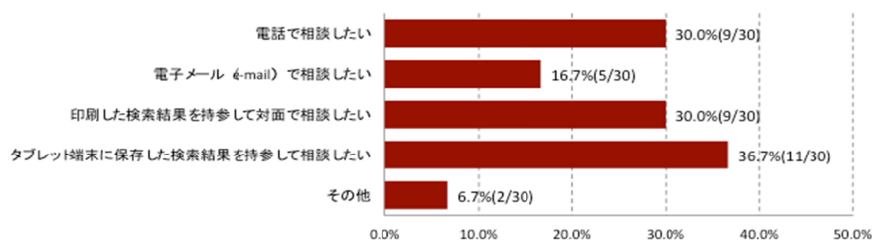


図 3. 相談方法

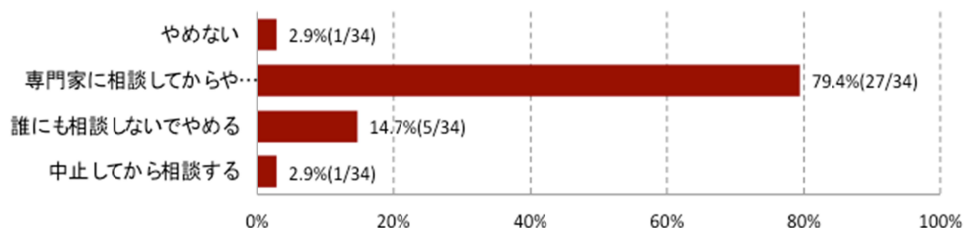


図 4. 検索体験後の服薬行動

3) 検索結果の表示内容

検索結果が表示されると同時に、どのような文言が表示されれば、医師や薬剤師など、専門家に相談するきっかけとなるかについては、「医師や薬剤師へ相談して下さい」、「医師、薬剤師などの専門家への相談をお勧めします」、「早く医者にかかって下さい(相談して下さい)」など、ストレートに相談を指示する文言が良いとする回答が多かった。

D. 考察

本研究では、患者のヘルスリテラシーを高め、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるような仕組みを検討している。先行調査において、患者は医薬品の副作用や相互作用について、服用前に調べる人が多いことが確認された。このため、服用後に医薬品の副作用や相互作用を検索することがそもそも想起しにくく、「服用後に体調の変化を感じた場合、医薬品との関連性をアプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か」という設問への回答が難しかった可能性が示唆された。そこで本調査では、調査対象者にサンプル事例を用いて実際にタブレット端末で検索していただき、検索後にどのように行動するかを確認した。

服薬後に体調変化を感じた際の相談先は、「医師に相談した」が回答の 60.0%と最も多く、先行調査でも 69.4%であったことから、ほぼ同様の結果となった。一方、「薬剤師に相談した」という回答については、先行調査では 15.4%であったが、本調査では 3.3%であった。先行調査と同様に、服薬後の体調変化について、薬剤師に相談できることがあまり知られていないと考えられた。

タブレット端末を実際に用いてサンプル事例を検索していただき、医薬品との関連性が疑われる場合に、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した結果、事例検索を体験した後の行動として、回答者の 97%が相談の意向を示した。また、検索体験前は「相談しない」と回答した人が 23.3%であったのに対し、体験後は 2.9%と変化しており、実際にタブレット端末に触れ、検索結果を目にすることで、専門家への相談行動を促すことに繋がると考えられた。相談方法については、非対面での相談が 46.7%、対面での相談が 53.3%であり、電話やメールに接続する機能、結果画面を印刷又はタブレット端末に保存して薬局などへ持参できるような機能など、対面と非対面両方に対応できるシステムが望まれると考えられた。

検索結果を見た後の服薬行動については、医師、薬剤師など専門家に相談してからやめるが 79.4%であった。その一方で、「誰にも相談しないでやめる」が 14.7%であったことから、検索結果によって服薬コンプライアンスの低下につながる可能性が考えられた。したがって、検索結果の表示方法や内容、また、相談を勧める文言を使用する等の工夫が必要である。

E. 結論

本研究では、患者自身が自覚症状を医薬品に関連付けて、医師や薬剤師に相談できるような仕組みを検討する目的で、実際にタブレット端末を用いて医薬品との関連性についてタブレット端末用アプリで検索し、関連性が疑われる場合には、薬局へ相談に行くか否か、相談に行かない場合、その理由について調査した。その結果、タブレット端末を用いて検索を体験する前と比較して、検索を体験した後で

は専門家へ相談するという意向を示す人が増えることを確認した。また、専門家への相談を動機付けるには、「医師や薬剤師へ相談して下さい」など、ストレートな文言で相談を強く勧めることが望まれる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

参考文献

なし